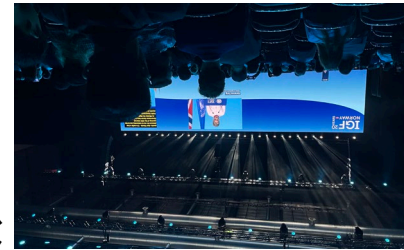


- 総務省からは今川総務審議官、飯田参与他が参加。本年後半に国連が行うWSIS+20レビューについて、IGFのマンデートの恒久化やGDCのフォローアッププロセスにおけるIGF等の既存枠組の活用を主張。

1 総務省からの主な発信

○プレナリーセッション「Building Digital Governance Together」

- ・インターネットガバナンスにおけるマルチステークホルダーアプローチは非常に重要。
- ・本年はWSIS+20レビューがあり、IGFのマンデートの延長について議論される重要な年になるが、IGFのマンデートの延長のみならず、恒久化を目指す必要がある。



オープニングセレモニーの様子

○ハイレベルセッション「Digital Public Goods and Global Digital Cooperation」

- ・デジタルの恩恵を世界中の誰もが包摂的に享受できるよう、デジタル分野における国際協力を一層加速させていく必要がある。
- ・既存の取組を有効活用し、引き続き産業界、市民社会、テック・コミュニティ、アカデミアなどのマルチステークホルダーとの協力を通じて、安全、安心なデジタル公共財の開発・普及・維持に努めるべき。



セッションに登壇する今川総審

2 総務省主催セッション

○総務省は「WSIS+20レビュー」及び「AIガバナンス」の2つのセッションを開催し、WSIS+20レビュー及びGDCのフォローアップに向けた今後の戦略および協力やAIガバナンスの今後の展望等についてマルチステークホルダーで意見交換。



総務省主催セッション

【基本的スタンス】

- 我が国はインターネットガバナンスにおけるマルチステークホルダーアプローチを非常に重視。
- IGFはマルチステークホルダーアプローチが有効に機能していることを象徴する会合としてマンデートの延長のみならず恒久化を目指す。

(1) WSIS+20レビューゼロドラフト

- IGFの恒久化やマルチステークホルダーアプローチの重要性が提唱されており、これを評価。

(2) Global Digital Compact (GDC)

- GDCにおいても「IGFはインターネットガバナンスの議論のための最も重要なマルチステークホルダーのプラットフォーム」とされている。
→今後のGDCのフォローアップの文脈でもIGFのようなプラットフォームが果たす役割は大きい。
- AIにおけるグローバル・ダイアログといった会合をIGFのような場と連動することも。

【今後の対応予定】

- 今年12月のWSIS+20レビュー@NYCについては総務省も参加予定。
引き続きマルチステークホルダーアプローチの重要性、マンデートの延長、恒久化について発信していく。